



ポポフ ニュース

No. 23 2016年7月号

ポポフ (POPOF) はポレポレ基金 (Pole Pole Foundation) の略称で、1992 年にコンゴ民主共和国で設立された NGO (非政府・非営利団体) です。ポレポレとは「ぼちぼち」という意味のスワヒリ語で、あせらずゆっくりと運動の輪を広げていこうという気持ちがこめられています。

ポポフの目的は、コンゴ東部にあるカフジ・ビエガ国立公園の周辺で自然環境の保全、絶滅の危機に瀕するヒガシローランドゴリラの保護、地域振興、自然保護教育を実践することにあります。

会員はほとんど国立公園周辺に居住する地元の人々で、調査団を組織して土壌や動植物相の現状を調査したり、自然資源の持続的な利用をはかるように村人たちに呼びかけています。子供たちの年齢に合わせて環境教育のプログラムをつくり、就学前の児童から、大学生、主婦にいたるまでさまざまな教育事業を実施しています。また、国際交流を高めるために観光客に配布するパンフレットや絵はがきをつくり民芸品を販売して、地元でエコツーリズムを推進するための活動をしています。

こういったポポフの活動を支援するために、日本支部ではカフジ・ビエガ国立公園周辺の人々の生活、アート、ヒガシローランドゴリラを題材にした絵はがき、カレンダー、エコバッグを作成して販売し、展示会、講演会を開いて寄付を募り、現地で保護・教育活動や必要な物品を購入する資金にあてています。また、民芸品を作成する技術やアイデア、自然保護教育のための教材を提供したりしています。現地コンゴの政治情勢が思わしくないため日本ではまだポポフの会員を募集するまでに至っていませんが、将来日本からも人材を派遣してより国際的な活動ができるようにしていきたいと思っています。

ポポフニュースは、最近のポポフの活動を紹介し、今までに日本で集められた資金がどのような活動に使われたかを報告するニュースレターです。現地の人々やゴリラの近況についても報告していこうと思います。また、ポポフが創作したポポフ・グッズや絵はがきの販売についても紹介しますので、お知り合いで興味のある方にもぜひ伝えていただきたいと思います。



(2 0 1 5 年 6 月 から 2 0 1 6 年 5 月 まで)			
2 0 1 5 年			
6 月 7 日	TEDx Kyoto University “Violence is not human nature”	Juichi Yamagiwa	京都大学山内ホール (京都市)
6 月 16 ~ 21 日	カフジのゴリラ絵本原画展	堺町画廊 (京都市)	
6 月 21 日	「コンゴの子どもたちー昔話と絵本ー」	バサボセ・カニユニ	堺町画廊 (京都市)
7 月 20 日	第 31 回日本霊長類学会公開シンポジウム “Gorilla research: Quest for the origin of human family”		
		Juichi Yamagiwa	京都大学百周年時計台記念ホール (京都市)
8 月 1 日	高野山夏期大学公開講演「暴力はどこから来たか」	山極寿一	高野山大学 (高野山)
9 月 10 日	麻布獣医科大学 125 周年記念シンポジウム基調講演「ゴリラから見た地球共生系」		
			麻布獣医科大学 (相模原市)
9 月 19 日	マハレ 50 周年記念シンポジウム「日本の類人猿学の挑戦ー人類誕生の地アフリカで見えてきたこと」		
		山極寿一	東京大学弥生講堂 (東京)
10 月 24 日	味の素食の文化シンポジウム基調講演「共食ー今夜あなたは誰と食事をしますか？」		
			味の素食の文化研究センター (東京)
11 月 8 日	第 131 回法然院森の夜の教室「子どもたちに伝えたい文化」	山極寿一	法然院 (京都市)
11 月 14 ~ 15 日	SAGA 18 にポポフのブース出店		京都市動物園 (京都市)
12 月 13 日	「ゴリラ、かわうそ談義」	あべ弘士・山極寿一	堺町画廊 (京都市)
2 0 1 6 年			
1 月 30 日	上廣倫理財団文化フォーラム「人生後半の生き方を考える」、「老年期の進化と人間社会の未来」		
		山極寿一	日比谷公会堂 (東京)
2 月 11 日	GSEE/Kyoto2016 (未来創生学国際研究ユニット) « A Field Primatology : A Window for Human Evolution »		
		Juichi Yamagiwa	京都大学基礎物理学研究所湯川記念館 (京都市)
2 月 17 日	朝日カルチャーセンター横浜教室「京大式おもしろ勉強法」	山極寿一	朝日カルチャーセンター (横浜市)
3 月 19 日	美術科教育学会大阪大会特別講演「共感社会の進化と美的表現の起源」	山極寿一	大阪成蹊大学 (大阪市)
3 月 20 日	第 30 回日本助産学会特別講演「ゴリラにみる親子関係から学ぶ」		
			京都大学百周年時計台記念ホール (京都市)
4 月 10 日	京都大学総合博物館「眠り展ー私たちはいつ、どこで、どうやって眠ってきたのか」シンポジウム		
			「ゴリラのベッドと眠りー睡眠進化論」
		山極寿一	京都大学百周年時計台記念ホール (京都市)
4 月 16 日	子ども脱被ばく裁判を支える会主催『アフリカと友だちになろう！』		
		ふしはらのじこ・森岡美紀	
			クロスパル高槻 (高槻市)
4 月 30 日	ギャラリープルプル 5 周年記念「大ゴリラ展」スペシャルトーク		
		山極寿一・あべ弘士・澁澤寿一	
			ギャラリープルプル (旭川市)
5 月 20 日	京都造形大学展トーク「百年の愚行」	尾池和夫・山極寿一	京都造形大学 (京都市)
5 月 21 日	第 59 回日本糖尿病学会特別講演「ゴリラから見た人間のコミュニケーションと社会の進化」		
		山極寿一	京都国際会議場 (京都市)
5 月 28 日	日本文化人類学会第 50 回研究大会記念シンポジウム「人類の道徳性と暴力性をめぐってー		
			隣接諸科学との対話ー」、「言葉以前のコミュニケーションと道徳の起源」
		山極寿一	南山大学名古屋キャンパス大ホール (名古屋市)

収 入		支 出	
昨年度よりの繰越金	2,360,852	ニュースレター印刷費	26,500
講演会・シンポジウム カンパ	164,197	ニュースレター・ホームページ作成費	25,250
展覧会売上	128,646	ポポフグッズ材料費・制作費	83,619
作品売上寄付	84,395	郵送費	33,222
ポポフグッズ売上 (現金)	219,320	ポポフへ送金	4,147,350
寄付 (現金)	1,748,275	次年度へ繰越金	2,623,790
売上・寄付 (郵便振替)	2,233,639		
受取利子	407		
計	6,939,731	計	6,939,731

東海ろうきん NPO 団体等寄付システム、日本グレイトエイプス保護基金、A SEEDJAPAN「ケータイゴリラ」、エネオスクリック募金から、寄付金をいただいています。

ジョン・カヘークワ

カフジ・ビエガ国立公園が設立されてから 45 年が過ぎました。その間、ゴリラ観光の規則は大きく変化しました。1970 年代から 90 年代まで、25 人を上回る観光客が 1 日にゴリラを見に行くことが度々あり、観光シーズンにはこれが毎日続きました。12 歳の子どもがこれらの観光客に混じって、親とともに間近でゴリラを観察することもありました。観光客たちはゴリラを見ながらカメラのフラッシュをたき、大声で歓声をあげました。

大きな変化が起こったのは 90 年代中頃です。1 日にゴリラを観察にいけるのは 8 人までに制限され、15 歳以下の子どもたちはゴリラを見に行くことが禁じられ、フラッシュをたくことや騒音も規制されました。ゴリラを観察するときは 7 メートル以上距離を置くことが義務付けられました。それは、近年の人為的な圧力によって、ここ高地の嚴重な保護の下に置かれているヒガシローランドゴリラが半分以下に数を減らしてしまったからです。内乱に乗じて保護区が農耕地として開拓されたために、ゴリラの生息地が激減し、新しい保護政策を立てて若い世代に普及する必要性が生じたのです。

今回、私たちガイドは 15 歳の学生たちを連れてゴリラの森へ入りました。森へ行く前に、私たちは学生たちに 15 年前まで続いた内戦中に虐殺された野生動物たちの遺骨を見せました。内戦中、私たちは危険を冒して森をパトロールし、動物たちが殺された現場を検証しました。毎日、銃声が聞こえました。私たちはそれが密猟者の集団である



▲ 密猟現場から押収されたゴリラの頭骨を前に説明を聞く 15 歳の少年

ことを知っていました。私たちはレンジャー、兵士、トラッカーからなるチームを編成してパトロールをしました。ピグミーのトラッカーたちは地図がなくても森を自在に歩くことができ、とても勇敢でした。でも、密猟現場に出くわすと兵士たちは私たちに後退するように指示しました。銃を持たない私たちが拉致されるのを気遣ったからです。幾度も銃撃戦が起きました。密猟者たちはたいい逃げ失せてしまい、後には動物たちの死体や煙であぶった肉、骨、毛皮、歯、爪などが大きな火跡とともに残されていました。計45の密猟現場から、私たちは3丁の銃を押収しました。獲物となった主な動物は、ゾウ、ゴリラ、チンパンジー、ヒヒ、カモシカ類、イノシシ、オナガザル類やコロブスモンキーなどです。これら押収した野生動物の骨は、国立公園のビジターセンターに展示してあります。学生たちはここで、過去の惨劇を学ぶのです。

ゴリラをはじめとする野生動物の保護には、村人たちの理解と協力が欠かせません。村人たちが法を犯して森に入り、木を伐採したり野生動物を密猟したりするのも、日々の暮らしの糧を求めていることです。私たちがやっているゴリラツアー「シルバーバック・キングダム」は、ゴリラを観察した後に近隣の村を訪問して住民の暮らしを見せるツ

アーも実施しています。村の女性は毎日、30キログラムのたきぎを集めて頭に乗せ、赤ん坊を背負って5キロメートル以上も歩いて家に運ばねばなりません。そういったつらい仕事を実感してもらうのも、このツアーの目的です。世界遺産の自然を保護することが、いかに地元の犠牲の上に成り立っているかをぜひ知ってもらいたいと思います。



▲村の女性にたきぎの束をかつがせてもらい、歩いてみる観光客の女性

途中、何度も挫折しながらも完成させることができたのは、これらの人々の辛抱強い協力のおかげです。みんなとても喜んでいます。

新しい図書館には机と椅子があるだけで、まだ書架も蔵書もそろっていません。私たちが現地を訪問する際に日本から持ち寄った絵本が10数冊あるだけです。これから、近郊にある中央科学研究所や農業研究所、それに近隣の都市ブカブから本を集め、日本をはじめ世界中のポポフ支援者に呼びかけて、本を集めようと思っています。

アンガ小学校や中学校に通う生徒たちは新しい知識に飢えています。これまで教科書すらない教室で、先生たちが黒板に書いたり話したりする知識をひたすら覚えていました。本があれば、もっと広い知識を、もっと具体的に、もっと正確に身につけることができます。世界中で起こっている出来事や古い歴史を言葉だけでなく、絵や写真を用いて

学ぶこともできるでしょう。生徒たちはそれを心待ちにしています。

環境教育を通じて、生徒たちは地元の自然を保護し、未来へ残していく意義を理解するようになりました。世界の各地で、その土地や民族の財産である貴重な自然や文化を守ろうとする動きがあります。本を読んでそれらの活動を知ることによって、生徒たちの夢はさらに広がるでしょう。アンガ中学校の生徒たちはとても優秀です。バカロレアという全国共通テストで次々に高い成績をあげて大学へ上がる資格を取得しています。将来は国立公園の保護、林業、農業といった自然を相手にする仕事につきたいという生徒が多いのです。これからこの図書館に多くの本を揃え、これらの生徒たちの夢を叶えてあげたいと切に思います。どうかみなさんのご協力をお願いいたします。



▲国立公園の入り口で保護区の自然について学ぶ生徒たち



◀日本から届いた絵本を見る子どもたち



▲アンガ中学校の敷地に完成した図書館



山極寿一

念願の図書館がやっと完成しました。2014年の12月に完成させた見取り図を基に建設を始めたのですが、次々に困難が行く手を阻みました。まず、土台をコンクリートで固め、支柱を立てて区割りをし、そこに壁を立ち上げていったのですが、壁の材料の日干しレンガがなかなか入手できません。そのうち、昨年5月の大雨で道路が寸断されてしまい、建材や日干しレンガを車で運ぶことができなくなりました。やむなく自分たちでレンガを作って野焼きし、壁を塗りました。その間に屋根をふくトタン板が値上がりしてしまい、日本からの支援金が底をつきました。やむなく、ポポフ日本支部から追加の支援金を送って何とか完成までこぎつけました。この間、多くの地元の人々やアンガ中学校の生徒たちが建設作業に参加してくれました。

図書館が完成しました

バサボセ・カニユニ

カフジ・ビエガ国立公園に隣接するコンゴ民主共和国中央科学研究所では、ここに生息するゴリラとチンパンジーに関する京都大学との共同研究が実施されています。このたび、長年の調査が実って、ゴリラとチンパンジーの食べる果実に寄生虫を除去する効果があることがわかりました。

この研究所では、1991年からゴリラとチンパンジーの集団を追跡し、その通跡に落ちている新しい糞を採集して内容を記録しています。ゴリラはどんな果実でも種ごと飲み込んでしまうので、糞には種が出てきます。種の形からその果実の種類を見分けることができます。チンパンジーも種ごと飲み込むこともありますが、種を吐き出すこともあるので、直接観察して確かめた果実を記録しました。また、新しい糞には寄生虫やその卵が含まれていることがあります。これを顕微鏡で確かめて、寄生虫を同定します。これまでに、19種類の寄生虫が発見されました。最も頻繁に含まれていたのは孢子虫類の仲間のコクシジウム(球虫)類で、ゴリラの糞の94%、チンパンジーの糞の93%に見つかりました。そのほかに、回虫 *Ascaris*、捻転胃虫 *Haemonchus*、糞線虫 *Strongyloides*、条虫類の *Moniezia* や *Taenia* がゴリラとチンパンジーの1割以上の糞から見つかっています。また、ゴリラだけに多い寄生虫として肝蛭 *Fasciola*、線虫の仲間の *Trichostrongylus* が見つかりました。

これらの寄生虫を除去する化学物質として、サポニン、テルペン、ステロイド、アルカロイド、フラヴォノイド、フェノール、キノン、グリコシドがあります。カフジでゴリラとチンパンジーがよく食べる9種類の果実を調べると、これらの化学物質がたくさん含まれていることがわかりました。とくに、両種の類人猿が好む *Syzygium guineense*、*Mirianthus holstii*、*Allophylus africanus* にはこれらの化学物質がまんべんなく大量に含まれていることが判明したので

す。ゴリラもチンパンジーもたくさんの寄生虫をもっているのに、良好な健康状態を保っているのは、これらの果実を好んで食べるせいかもしれません。寄生虫への感染は、1990年代から最近まで続いていた内戦中に多くの人々が保護区に逃げ込み、その排泄物によって急増した可能性があります。今後は人間との接触を最小限に抑え、寄生虫を除去する効果のある果実のなる樹種を無くさないような配慮が必要だと思います。



▲ *Mirianthus holstii* の果実。ひとつひとつちぎって食べる。甘酸っぱくておいしい。

発表論文

Kamungu S, Basabose K, Bagalwa M, Bagalwa B, Murhabale B, Yamagiwa J (2015) Phytochemical Screening of Food Plants Eaten by Sympatric Apes (*Gorilla beringei graueri* and *Pan troglodytes schweinfurthii*) Inhabiting Kahuzi-Biega National Park, Democratic Republic of Congo and their Potential Effect on Gastro Intestinal Parasites. International Journal of Pharmacognosy and Phytochemical Research 7(2); 255-261 (ISSN: 0975-4873).



ポポフのホームページ



ポポフ日本支部の公式ウェブサイト
ゴリラ、カフジ・ビエガ国立公園の紹介のほか、グッズの販売、ポポフニュースのバックナンバー閲覧ができ、コンゴの昔話ページもあります。

日本語サイト: <http://popof-japan.com/blog/>

ポポフの英語版ウェブサイト



ポポフ・インターナショナル POPOF-I による
英語版のウェブサイト

英語サイト: <http://www.polepolefoundation.org/>

英語ブログ: <http://www.blog.polepolefoundation.org/>



山極寿一

カフジ・ビエガ国立公園には高地部(標高1,800~3,308メートル)と低地部(標高600~1,800メートル)があり、6,000平方キロメートルの保護区のうち低地部はその9割を占めます。両地域は幅数キロメートルのコリドー(橋梁部)でつながっており、最近はこのコリドーが農地の拡大で野生動物が移動できなくなっていることが懸念されています。

1994年に実施されたヒガシローランゴリラの広域調査では、コンゴ民主共和国(当時はザイール共和国)の東部に、16,900頭(範囲:8,660~25,500頭)の生存が推測されました。その90%近くはカフジ・ビエガ国立公園の中かその周辺に生息しており、公園内には少なくとも8,000頭はゴリラが生息しているとされていました。ところが、最近実施された調査をつなぎ合わせると、全域で3,800頭(1,280~9,050頭)のゴリラしか生き残っていないことが判明しました。内戦の間にゴリラの数が70%以上減ってしまったことが明らかになったのです。しかも、カフジ・ビエガ国立公園の低地に生息するゴリラは1,272~2,518頭と推測されており、高地で数えられた170頭と合わせても3,000頭に満たない数となっています。多くの生息地が分断されて孤立しており、ゴリラが移動できない状態に置かれています。これでは、近い将来もっとゴリラの数は減ってしまうでしょう。



▲ チマヌーカ集団のお母さんと子どもゴリラ



阿部知暁 画

こうした現状を開く特効薬はありません。ポポフのメンバーは低地まで遠征して村々を回り、ゴリラをはじめとする野生動物を食肉として狩猟しないように訴えています。ヤギやブタを配って、野生動物の代わりに家畜を飼う指導も実施しています。どこの村でも、家畜さえいれば法を犯してまで密猟をする気はないと人々はいいます。家畜に加えて、各地で養魚池を作ってテラピアを養殖し、動物たんばく質の確保を促進しているところです。

幸いなことに、高地部では多くのゴリラ集団が定期的にモニターされており、今年は密猟や不慮の事故で亡くなった個体はありません。赤ん坊も順調に生まれており、チマヌーカ、ビリンドウワ、ガニヤムルメ集団でそれぞれ1

頭ずつ赤ちゃんが生まれました。観光客におなじみのチマヌーカ集団はメスを2頭失いましたが、相変わらず大きな集団を保っています。残念ながらヒトリゴリラのムガルカのもとには、まだメスがやってきていません。人付けの努力を続けているムブンゲはだいぶ馴れてきて、もうあまり人を怖がなくなりました。今はまだ遠い場所を遊動しているので、観察に行くには大変ですが、近くにやってくれば観光客を連れて見にいけるでしょう。楽しみにしてください。

次頁へ続く→

カフジ・ビエガ国立公園でモニターされているゴリラ集団の現在の構成

集団名	シルバーバック	ブラックバック	オトナメス	ワカモノ	コドモ	アカンボウ	合 計
	13 歳以上	8-12 歳	8 歳以上	6-8 歳	3-6 歳	0-3 歳	
ムガルカ	1						1
チマヌーカ	1		14	2	5	6	28
ピリンドゥワ	1		3		3	2	9
ムファンザーラ		1	8	3	4	2	18
ランガ	1		5		1	1	8
ムプングウェ	1		6				7
ガニャムルメ	1		8		2	3	14
マンコト	1		12	1	1	2	17
無 名	1	1	10			3	15
合 計	8	2	66	6	16	19	117

参考文献

Plumptre AJ, Nixon S, Critchlow R, Vielledent G, Nishuli R, Kirkby A, Williamson E, Hall JS, Kujirakwinja D (2016) Status of Grauer's gorilla and chimpanzees in eastern Democratic Republic of Congo. ISBN 10: 0-9792418-5-5 ISBN 13: 978-0-9792418-5-7.

催しのご案内

2016年

● 11月19、20日 サガシンポジウム (SAGA: Support for Asian and African Great apes) ときわ動物園 (宇部市)

近刊案内

岩波新書編集部編	『18 歳からの民主主義』	岩波新書
山極寿一著	『京大式おもしろ勉強法』	朝日新書
NPO 法人「少年ケニアの友」編	『ケニアへかけた虹の橋ー 30 年のボランティア活動』	春風社
平田オリザ	『下り坂をそろそろと下るーあたらしいこの国のかたち』	講談社現代新書
竹本修三著	『日本の原発と地震・津波・火山』	マニュアル・ハウス
辻 信一著	『弱虫でいいんだよ』	筑摩プリマー新書
河合俊雄・中沢新一・広井良典・下條信輔・山極寿一	『<こころ>はどこから来て、どこへ行くのか』	岩波書店
田島知之・本郷竣・松川あおい・飯田恵理子・澤栗秀太・中林雅・松本卓也・田和優子・中澤伸子著	『はじめてのフィールドワーク』	東海大学出版部
座馬耕一郎著	『チンパンジーは 365 日ベッドを作る』	ポプラ新書
中川尚史著	『“ふつう” のサルが語るヒトの起源と進化』	ぶねうま社
中村美知夫著	『サル学の系譜ー人とチンパンジーの 50 年』	中公叢書
河合香史編	『他者ー人類社会の進化』	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
海部陽介著	『日本人はどこから来たのか』	文芸春秋
大野照文監修・蒲生諒太編著	『学びの海への船出ー探究活動の輝きに向けて』	京都大学総合博物館
佐藤哲著	『フィールドサイエンティストー地球環境学という発想』	東京大学出版会
山越言・目黒紀夫・佐藤哲編	『自然はだれのものかー住民参加型保全の逆説を乗り越える』	京都大学学術出版会
小馬徹著	『文化を折り返すー普段着でする人類学』	神奈川大学人文学研究叢書
谷誠著	『水と土と森の科学』	京都大学学術出版会
田井基文著	『どうぶつのくに』	講談社

ポポフ・グッズ通信販売



☆ビチブ・ムフンブーカ絵はがきセット
(おまかせ 5 枚組) 600 円



☆ケイタイ・ストラップ (黒)
2000 円



☆ポポフ絵はがきセット
(おまかせ 10 枚組)
1000 円

☆ポポフエコバッグ

【ア】～【カ】の図柄をご指定ください
(薄手) 1500 円
(厚手) 2500 円

*エコバッグの生地は厚手と薄手があります。注文時にどちらかをご明記してください。薄手は注文から納品までひと月ほどかかります



この他にも図柄が選べるバラ売りの絵はがきや、ポポフを応援するアーティストによるイラストのエコバッグがたくさんあります。また、ここに掲載できなかったグッズも用意しています。「ポポフ ホームページ」のグッズページも是非ご覧ください。

http://popof-japan.com/blog/?page_id=24

短縮 URL: <http://goo.gl/CO3JDC>

▼ グッズページ QR コード



☆ポポフ 2017 年カレンダー

(予約販売 11 月頃配布)
1000 円

(2016 年のサンプル)



ポポフ日本支部では、ポポフのメンバーが作成したポポフ・グッズを販売して、その売り上げを現地の活動資金に寄付しています。ご協力いただける方は、郵便局で「青色」の振り込み用紙にご希望の品名を書き込み、該当する金額をお振り込み下さい。折り返し、グッズをお送りいたします。

口座番号: 00810-1-90217
加入者名: ポレポレ基金

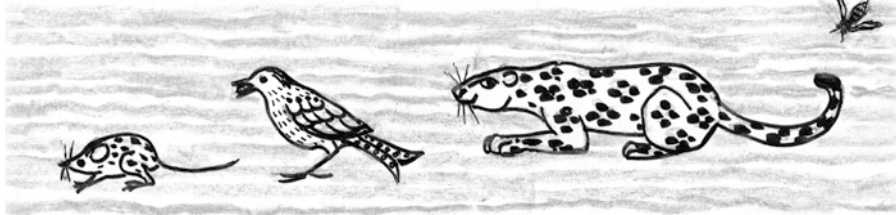
郵便振替情報 QR コード ▶



お願い: ポポフの紹介とポポフ・グッズの展示・販売を各地で行いたく思っています。可能な場所と展示を引き受けてくださる方があれば、ご連絡下さい。

連絡先: 〒 606-8502 京都市左京区北白川追分町
京都大学大学院理学研究科人類進化論研究室
ポポフ日本支部

三人の兄弟



語り手：バサボセ・カニユニ
挿し絵：訳：ふしはら のじこ

むかし、むかし。ある村に三人の兄弟がいました。長兄は親のいうことも聞かず悪いことばかりしていました。次兄もまた同じようでした。二人から年が離れた末の弟はとてもいい子で、親孝行な子どもでした。やがて、兄二人は大きくなり、ヒゲもはえて、結婚する年頃になりました。

村々を治める王様には、とてもとても美しいむすめがいました。長兄は父親にこういいました。

「お父さん、私の妻は王様のむすめ以外に考えられません。王様のむすめを嫁にもらうため、王様のところへ行きます」

父親は長兄を止めましたが、長兄は聞く耳を持ちませんでした。そして、一人出かけて行きました。道をずっと歩いて行くと、道端から中できものだらけの老人が座っていました。老人は長兄を見るといいました。

「お若いの、ちょっと頼みを聞いてくれないかい。私を川まで連れて行って、このできものの傷を洗っておくれ」

長兄は老人の汚い姿を見ると、返事もせず、知らん顔で通りすぎて行きました。森の中の道をどんどん歩いて王様のところへ向かいしました。

王様のところへ着くと、長兄は王様のむすめを嫁にくださいと頼みしました。すると王様はこういいました。

「むすめを嫁にするには、わたしが出す四つの問題をどれも解決しないとイケない。一つでもできなかつたら、すぐに牢屋行きだぞ」

長兄は最初の問題でしくじり、牢屋に入れられてしまいました。

家では父親が長兄の帰りを待っていました。長兄はいつまでたっても帰って来ませんでした。こんどは次兄がいました。

「お父さん、私も王様のむすめを嫁にしたいので、王様のところへ行きます」

父親は長兄も帰って来ないままなので、反対しました。けれど、次兄も聞く耳を持たず、出かけて行きました。道をずっと歩いて行くと、道端から中できものだらけの老人が座っていました。老人は次兄を見るといいました。

「お若いの、ちょっと頼みを聞いてくれないかい。私を川まで連れて行って、このできものの傷を洗っておくれ」

次兄も老人の汚い姿を見ると、返事もせず、知らん顔で通り過ぎて行きました。森の中の道をどんどん歩いて王様のところへ向かいしました。

次兄もまた、王様のむすめを嫁にくださいと頼みしました。そして、最初の問題でしくじり、牢屋に入れられてしまいました。

父親は兄弟をずっと待っていました。二人とも帰って来ませんでした。やがて、小さかった末っ子は大きくなり、ヒゲもはえてきました。ある日、末っ子は父親にいいました。

「お父さん、ぼくも王様のむすめを嫁にしたいので、王様のところへ行きます」

兄二人が帰って来なかったの、父親は末っ子を行かせたくありませんでした。末っ子は、親のいうことをよく聞くいい子でしたが、これだけは譲りませんでした。

末っ子が道を歩いて行くと、道端から中できものだらけの老人が座っていました。老人は末っ子を見るといいました。

「お若いの、ちょっと頼みを聞いてくれないかい。私を川まで連れて行って、このできものの傷を洗っておくれ」

末っ子は老人の頼みを聞いて、川まで老人を連れて行き、ていねいにからだを洗ってあげました。老人はたいそう喜びました。末っ子はまた道へもどり、歩き始めました。すると老人が末っ子呼び止めていいました。

「おまえはいい子だ。これから森の中で会うものたちにも親切にしておやり」

末っ子が森の中を歩いて行くと、小さなネズミが罠にしばしば挟まれていました。「お願いです。助けてください」

とネズミは頼みしました。末っ子はネズミを罠からはずしてやりました。ネズミは喜んで森の中へ帰って行きました。また道を歩いて行くと、お腹が空いてきました。末っ子は座って、持って来たとうもろこしを食べようとしました。すると一羽の鳥が舞い降りて来ていいました。

「そのとうもろこしを分けていただけませんか。木の上の巣で子どもたちがお腹をすかせています」

末っ子は、とうもろこしを鳥にやりました。鳥は喜んで何度も巣の子どもたちに運びました。末っ子がまた道を歩いて行くと、大きな穴がありました。穴を覗くと中にヒョウが落ちていました。

「お願いです。わたしをここから出してください」

とヒョウがいいました。

「助けてやってもいいが、助けたら私を食うなんてことはないだろうね」と末っ子は聞きました。

「そんなことは絶対にしません。どうかお願いします」

末っ子は穴の中に長い木を入れて、ヒョウが出てこられるようにしてやりました。ヒョウは喜んで、森の奥へ帰って行きました。

また道を行くと喉がかわいたので、末っ子は座って、持ってきたバナナジュースを飲もうとしました。すると、一匹のハチが耳元でいいました。「わたしの大好きなジュース。ちょっと飲ませてくれませんか」

末っ子はハチにジュースを飲ませてやりました。ハチは喜んで飛んで行きました。

末っ子はまた道を歩いて、やっと王様のところへ着きました。末っ子もまた王様にむすめを嫁にほしいといいました。王様は四つの問題を出しました。

王様は草でできた家に末っ子を入れ外から扉に鍵をかけました。家には窓もなく、中には山盛りの食べ物がありました。王様はいいました。

「いいか。その食べ物全部食べなければ、お前は牢屋行きだぞ」

末っ子が食べても、食べても少しも減りません。もうだめだと思ったとき、地面に小さな穴が開き、助けたネズミが顔を出しました。穴からはネズミがぞろぞろ出てきました。たくさんのネズミが部屋いっぱいの食べ物をくわえて、また穴の中へ消えて行きました。あつという間に食べ物は全部なくなりました。

扉を開けた王様はたいそう驚きましたが、すぐまた次の問題をだしました。こんどは大きな罠の中に、豆と米が混ざって撒いてありました。決められた短い時間のうちに豆と米をより分けて袋にいれるというものでした。細かい豆と米をどうやってより分けるというのでしょうか。末っ子が途方に暮れていると、とうもろこしをやった鳥が飛んできました。続いてたくさんの鳥が飛んできて、つぎつぎに豆と米をくわえて袋に入れて行きました。あつという間に豆の袋と米の袋ができあがりました。

王様は驚きましたが、もっと難しい問題を出しました。それは夜に森へ行き、森に住む妖怪の首を取ってくるというものでした。末っ子は手刀と槍を持たされ、夜の森へ入って行きました。森の中にいると恐ろしい声が聞こえてきました。妖怪です。末っ子が手刀を振りかざすとその手を妖怪がつかみしました。もう一方の手で槍をかまえるとその手もつかみしました。もうダメだやられる。その時、何かが妖怪に跳びかかりました。ヒョウです。助けたヒョウが妖怪と戦っています。ヒョウが妖怪を押さえつけ、末っ子は妖怪の首を切り落としました。

末っ子が妖怪の首を持って帰ると王様はいいました。

「うーん。今までは私の見ていない場所だったからお前は魔法をつかっていたかも知れない。最期問題は皆が見ているところでやってもらおう」

王様は近隣の人びとを呼び集めました。人びとが取り囲む広い場所には、大きなかめが5千個ほど逆さにして置いてありました。

「このかめの一つに私のむすめが入っている。そのかめを言い当てたら、むすめをお前の妻にしてやろう」

王様はそういいました。

見渡すかぎりかめが並んでいます。この中でどうやってむすめの入ったかめを探せばいいのでしょうか。かめの並んだ中を歩く末っ子を大勢の人びとが見つめています。その時、耳元でズズッと音がしました。末っ子が手で振り払おうとすると、それはハチでした。

「わたしですよ。あなたにジュースをもらったハチです。わたしはむすめの入ったかめを知っています。ほら向こうの左端のかめです。さあ探すふりをして近づいて行きなさい」

ハチが末っ子に答えを教えても、ハチは小さいのでまわりの人びとには見えませんでした。末っ子はあちこち探すふりをして、むすめの入ったかめに近づいて行きました。すると一つのかめの上にハチがとまっていたました。

「これだ。このかめだ」

末っ子が指したかめを開けると、王のむすめが出てきました。

王様は末っ子とむすめの結婚を許し、国の半分を分け与えました。そして牢に入れられていた二人の兄も許されて出てきました。

